



ボランティア紹介リレー

第7回

今回は、『キューブの会』からの紹介で、『びおっこの会』を紹介します。

「びおっこの会」とは？

エコハウス138の敷地内にあるビオトープ（生き物が安心して暮らせる場所）を、「びおっこ」と言います。びおっこの会は、この「びおっこ」をできるだけ自然に近い状態で保護・管理し、生き物とふれあえるよう手助けしたり、多くの人に紹介する市民ボランティアの会です。活動の一環として季節に合わせた農業体験（米、野菜の世話や収穫）も行っています。

参加者の声

・ 昨年の夏頃から参加しています。子供が生き物（虫や魚）が大好きで、ここに来ると普段経験させてあげられないことを、いっぱい体験し、ニコニコになります。水草取りの作業では、初めて胴付長ぐつを履き、池の中から陸地を見る経験もでき、子供達より私の方が楽しかったです。（40代父）
・ 田植えと、稲刈りに参加しました。家では、全くお手伝いしない我が子が、夢中になって働く姿を頼もしく思いました。毎日何気なく食べているお米が、こんなに大変な作業のおかげで出来ていることを、実感できたと思います。食べ物だけでなく、自然や全てのものに感謝する気持ちに気付かされます。（30代母）

市民の皆さんへPR

ボランティアは、登録すると必ず行かなくては、と義務のように思われる方もいますが、びおっこの会は、参加自由です。自然について、環境について楽しみながら体験し、考え、学んでみませんか？人間は、自然が無くなると生きていけません。人間も自然の一部であることを自覚し、自然を大切に育てていきたい。その思いを、お父さんお母さんにもわかりやすく伝えていきたいです。
ブログもあります。「びおっこ」で検索してみてください。

取材を終えて

会の皆さんがとても友好的で、親しみやすく、取材でお伺いしたにもかかわらず、会員さんと同じように楽しく参加させていただきました。まさに、「ボランティアは、楽しくなくては。」と言う会長の亀垣和夫さんのおっしゃる通りのグループでした。

〈問合せ〉
エコハウス 138 事務所内 びおっこの会事務局 Tel.47-7138



昔ながらの方法で田植え



「びおっこ」に増えた水草取り



生き物を捕ることは禁止しています



リバーサイドフェスティバルに参加



浅瀬に住む生き物のための環境整備

おあめふくしの本

つなみてんでんこはしれ、上へ！

指田 和 / 文 伊藤 秀男 / 絵 ポプラ社



図書館で借りることができます。
ぜひ読んでみてください。

東日本大震災からもうすぐ5年を迎えます。この本は、3.11の大津波を逃がた釜石の子供たちの実話を描いた絵本です。「てんでんこ」とは、てんでんばらばらの意味。家族が信頼しあって、いざというときは、一人ひとりがしっかり逃げる。けっして一家全滅などというつらく悲しい思いをしない、という意味がこめられているそうです。いざという時、自分のいのちを守るのは自分だと、子ども自身が信じるのが大事なのではないかと思います。いつか遭遇する自然災害を生き延びる勇気が、心のどこかに芽生える絵本です。